

読解力を育てる学習指導の工夫

～説明的な文章の学習における単元を貫く言語活動を通して～

糸満市立潮平小学校教諭 上原 馨

I テーマ設定の理由

今日の知識基盤社会において、情報を活用する能力や得られた情報から自分の考えを形成し、表現する能力は重要視されている。PISA型「読解力」は、国立教育政策研究所の「OECD生徒の学習到達度調査～2012年調査国際結果の要約～」では「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力」とあり、小学校学習指導要領が目指す「生きる力」の「確かな学力」と相通ずる。国語科の「読むこと」の学習では、文章読解の能力だけではなく、児童が目的意識を持って主体的に文章を読み、考え、活用する力、つまり広い意味での読解力を身に付けさせることが求められている。

沖縄県教育委員会発行の「わかる授業 Support Guide」は、求められる授業を、「児童生徒が課題を主体的に解決する授業」や「本や雑誌・インターネット・新聞等多様な資料を活用する授業（調べ学習や読書活動）」等と示している。

平成25年度沖縄県学力到達度調査の結果から、本校は、県と同様「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」に課題がみられた。

これまでの実践を振り返ってみると、説明的な文章の学習では、教材文の読み取りに重点を置いて教師主導で学習を進め、児童が主体的に考える場面をあまり設定していなかった。また、単元の前半に教材文の読み取り、後半に言語活動と別々に学習活動を行っており、知識の習得とその活用の関連性を児童に意識づけながら言語活動に取り組みせるといった指導が十分にできなかった。そのため、教材文の学習を基に他の文章を読み取る方法が身に付いていない児童が多く、自分の考えをまとめるために本や文章を読んだり、友達の良い考えを取り入れようとしたりする児童が少なかった。

そこで本研究では、説明的な文章の学習において、単元を貫く言語活動を通して指導方法の工夫・改善を行う。導入（第一次）においては、児童に学習の見通しを持たせ、自ら課題を設定させることで主体的に学習に取り組む態度を育てる。展開（第二次）では、教材文の読み取りを活かし、課題の解決に必要な知識を身に付けさせる。発展（第三次）では、自ら設定した課題に取り組み、その内容について児童同士で考えを交流する場を設定する。交流を通して、課題から読み取ったことを活用して自分の考えを表現させる。

これらの学習指導を通して読解力が育つと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

国語科の説明的な文章の学習において、次のような指導を行えば、読解力が育つであろう。

- (1) 単元を貫く言語活動を設定し、児童に学習の見通しを持たせ、自ら課題を設定させることで、主体的に学習に取り組む態度を育て、課題解決に必要な文章の読み取り方を身に付けさせる。
- (2) 自ら設定した課題に取り組みせ、児童同士の交流の場を設定することで、課題から読み取ったことを活用して自分の考えを表現させる。

2 検証計画

検証授業の対象 糸満市立潮平小学校 4年3組 35名			
	検証場面	検証の観点	主な検証方法
1 授業実践から	・児童が学習の見通しを持ち、課題を設定する場面。	・目的に応じて書かれた文章について違いを読み取るねらいを知り、自分で読む課題を決めることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・児童の発言や発表 ・ワークシートの記述 ・自己評価 ・教師のモデル ・児童が設定した課題（広告や説明書）
	・二つの文章を比べて読み目的による表し方の違いを読み取る場面。	・目的に応じて書かれている事柄や表し方に違いがあることを、教科書のとびきに示された観点到に沿って読み比べることができたか。	
	・児童が設定し、取り組んだ課題について相互交流する場面。	・友達の考えを聞き、課題から読み取ったことを活用して自分の考えを発表することができたか。	
2 授業実践前後の調査	<ul style="list-style-type: none"> ・国語意識アンケート ・形成確認問題 ・力試し（読み取り）テスト ・自作（読み取り）テスト 	事前（5月） 事後（7月） 事前（5月） 事後（7月） 事前（6月） 事後（7月） 事後（7月）	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの比較・分析 ・授業の事前事後に同一テストを実施し、比較 ・広告と説明書を読み取ることができるか、自作テストを実施、分析
3 まとめ	・説明的な文章の学習において、単元を貫く言語活動を設定し、文章の読み取り方を身に付けさせ、読み取ったことを活用して自分の考えを表現させることは、読解力を育てることに有効であったか。		・上記1、2の結果

Ⅲ 研究内容

1 読解力について

(1) PISA型「読解力」とは

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力（国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査～2012年調査国際結果の要約～」）。

従来の「読むこと」の学習における文章読解の能力との違いについては、次のことがあげられ、下線部分が新たに付け加えられたPISA型「読解力」と考えられる。

- ① 内容を理解するだけでなく、評価・解釈・活用・熟考する。
- ② 読むだけでなく、利用・活用して自分の意見を論じる。
- ③ 内容だけでなく、構造・形式や表現法も評価する。
- ④ 文章だけでなく、図やグラフ、表なども読みの対象とする。

PISA型「読解力」の学習プロセスは、「情報の取り出し」「解釈」「熟考・評価」「表現」の段階があり、読みとった情報を基盤として、論理的に思考し、考えたことを自分の言葉で表現する力を含めて読解力としている。

(2) 小学校学習指導要領が目指す「生きる力」の確かな学力との関連

「生きる力」は、確かな学力、豊かな心、健やかな体の三つで構成されており、知識の基盤となるのが確かな学力である。

鎌田首治朗氏は、PISA型「読解力」について、「日本の『生きる力』と同じく、現実の社会の中

で自らの人生をよりよく生きるための能力，学力を意識している。」と述べている。さらに『『書かれたテキスト』を読むという観点から「確かな学力」や「生きる力」をとらえたものといってよい。」と述べている。「生きる力」を育てるためには，確かな学力の向上が不可欠である。学校教育法第30条第2項では，学力の重要な三要素を規定している。その三要素とは，

- ① 基礎的な知識及び技能
- ② 知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力等
- ③ 主体的に学習に取り組む態度（学習意欲）

である。確かな学力の向上のためには基礎的な知識・技能の習得，思考力，判断力，表現力の向上が必要であり，それには，教師の教え込みだけではなく，一人ひとりの児童が課題に対して主体的に取り組む，解決の方法を自ら判断し，他の考えを活かしながら解決していくことが求められる。

2 言語活動の充実について

言語活動とは，「言語を話したり書いたり，あるいは聞いて，または読んで理解したりする，人間の行動一般」（大辞林）であり，「自由討論などを通して自分の考えを述べたり，他人の意見を聞いたりする取り組み」（朝日新聞掲載「キーワード」2012 11/21）である。小学校学習指導要領国語科においては，基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることができるよう，内容の(2)に日常生活に必要とされる記録，説明，報告，紹介，感想，討論などの言語活動を具体的に例示している。

国語科の指導内容は，系統的・段階的に上の学年とつながらとともに，螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し，能力の定着を図ることを基本としている。国語科の目標を受けて示された，中学年の「読むこと」の指導事項及び言語活動例をまとめたものが表1である。本研究では，傍線部の事項を取り入れながら説明的な文章の読み取り方の学習を進めていきたい。

表1 小学校学習指導要領の「読むこと」における中学年の指導事項と言語活動例

(本単元に関わる内容)

「読むこと」の指導事項	第3学年及び第4学年	言語活動例
音読	ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 <u>横書きの文章の読み方</u> <u>写真や図を言語化した読み方</u>	朗読 表現読み 役割音読 群読 (一斉読み，リレー読み，交互読み，一人読み，黙読，速読，摘読等)
説明的な文章の解釈	イ <u>目的に応じて，中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え，文章を読むこと。</u>	イ <u>記録や報告の文章，図鑑や事典などを読んで利用すること。</u> <u>図鑑や事典の活用</u> <u>広告や説明書の活用</u> ウ <u>記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。</u> パンフレット作り，リーフレット作り，クイズ作り，新聞作り， <u>広告と説明書の作り方を調べる</u>
自分の考えの形成 および交流	エ <u>目的や必要に応じて，文章の要点や細かい点に注意しながら読み，文章などを引用したり要約したりすること。</u> オ <u>文章を読んで考えたことを発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。</u>	エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。 本の紹介（ポップ・帯・ポスターセッション）

3 単元を貫く言語活動について

(1) 単元を貫く言語活動とは

単元を貫く言語活動とは、当該単元を通して一連の学習の過程に即して位置付ける言語活動のことである。小学校学習指導要領第1章総則第4の2(4)に「児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるように工夫すること」と示されているが、単元を貫いて言語活動を位置付けることで、指導方法の工夫・改善ができると考える。

言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】では、『『ここで音読する』『ここで話し合う』といったばらばらの活動ではなく、児童が自ら学び、課題を解決していくための学習過程を明確化し、単元を貫く言語活動を位置付けることが必要である。』と示されている。言語活動が単元のどこか一カ所にしか位置付けられていない、あるいは関連のない別々の言語活動を行うといったことでは指導事項の定着は図られない。重点指導事項に直結した言語活動を、単元を貫いて設定することが重要である。特に、「読むこと」の学習においては、「児童自身にとっての読む目的を明確にして本や文章を選んだり、目的に応じて内容を的確にとらえたり、自分の考えをまとめて交流したりするなど、児童に必要な読む能力を調和的に育成することが重要」と示されている。水戸部修治氏は、従来の指導過程(図1)を子どもが主体的に思考・判断できる学習過程に変えていくことが大切であると、著書『単元を貫く言語活動のすべてが分かる！小学校国語科授業&評価パーフェクトガイド』で述べている。

よって、児童に学習の見通しを持たせ、自ら課題を設定させることで学習意欲を高め、文章の読み取り方を身に付けさせたい。また、児童同士の交流の場を設定することで、課題から読み取ったことを活用して自分の考えを表現させたい。

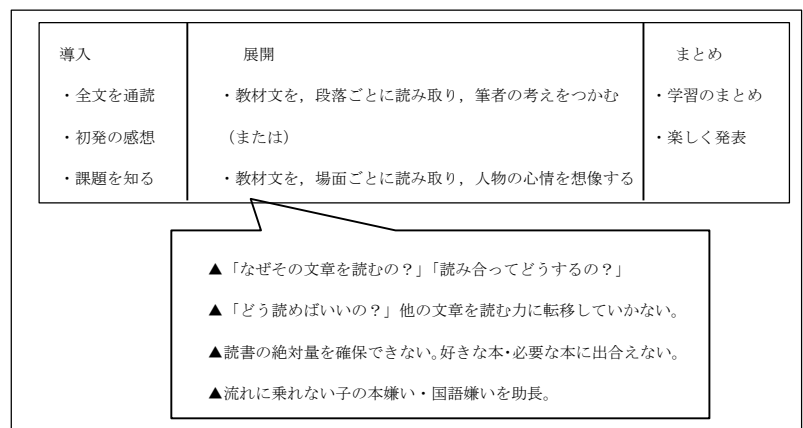


図1 従来の指導過程(単元構想)

(2) 単元を貫く言語活動を位置づけた単元構想モデル

水戸部修治氏は、単元を貫く言語活動を位置づけた単元構想モデルについて図2のように示している。導入(第一次)では、学習のゴールとなる言語活動を児童に示し、その課題を設定させる。

単元を貫く言語活動全体について見通しを持つことで、児童の学習意欲を高める。次に、展開の第二次で教科書を読んだ後に第三次の発展で何らかの活動を行うのではなく、展開と発展を密接に結びつけながら、

一貫した課題解決の過程を構想する。主体的に学習に取り組ませる手立てとして、第一次では教師の作成したモデルの提示、第二次では本物の広告や説明書の活用した読み取り、第三次では課題の内容についてお互いに読み合い、意見を交流し合う場の設定を行う。

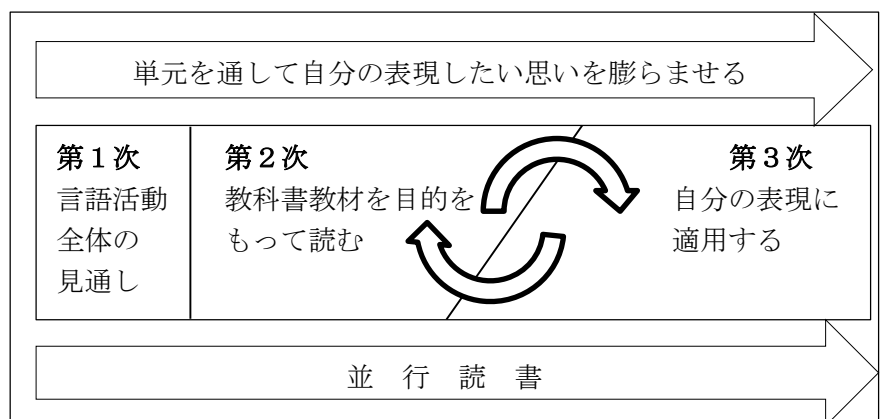


図2 単元を貫く言語活動を位置づけた単元構想モデル

(3) 「入れ子構造」と「教えて考えさせる授業」を関連させた授業展開

水戸部修治氏は、これまで単元を構想する際、教材文を読む展開（第二次）の指導に課題があることが指摘されてきたと『実践国語研究 325号(2014)』で述べている。導入で単元を貫く言語活動を見通す活動を位置付けても、第二次では言語活動との関連性が不明確なまま教材文を読み取らせる指導になりがちであるという。これでは、児童が学習に対して受け身になり、単元を見通した思考・判断ができなくなる。そこで、この課題を解決する手立てとして開発されたのが「入れ子構造」をもつ単元構想である。

「入れ子構造」とは、教材文を読み取る第二次の各単位時間に、発展部の学習を入れ込む指導過程を指すものである（図3）。これにより、すぐに自分の課題に活用できるとともに、単位時間に繰り返しの学習を位置づけることが可能となり、読む能力をスモールステップで指導できる。

第二次の展開と発展については、市川伸一氏の「教えて考えさせる授業」と関連させた授業展開を行いたい。「教師の説明」、「理解確認」までを第二次の展開、つまり教材文の読み取りとし、「理解深化」と「自己評価」までを第二次の発展の言語活動としたい（図4）。

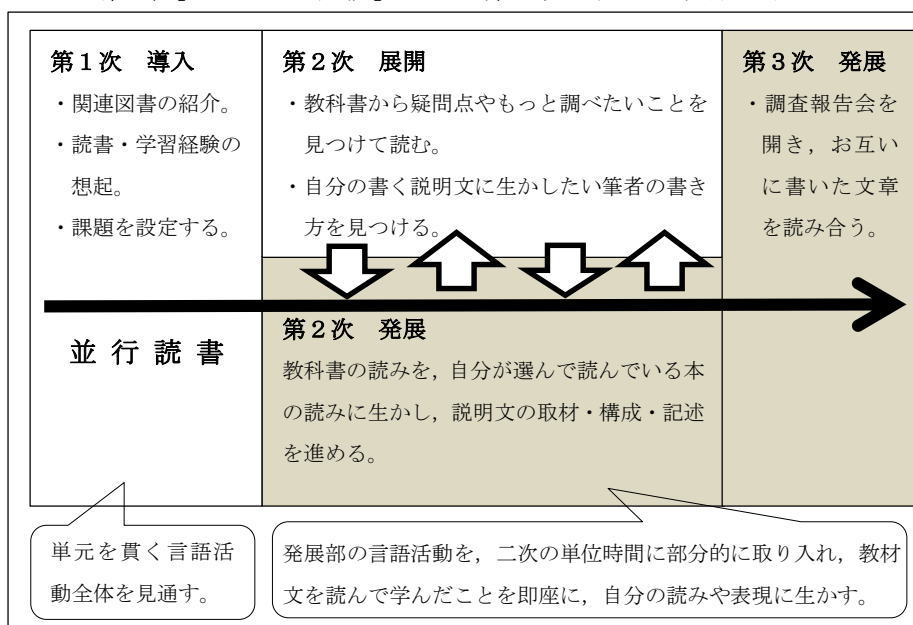


図3 展開部の単位時間内に発展部を入れ込む「入れ子構造」モデル

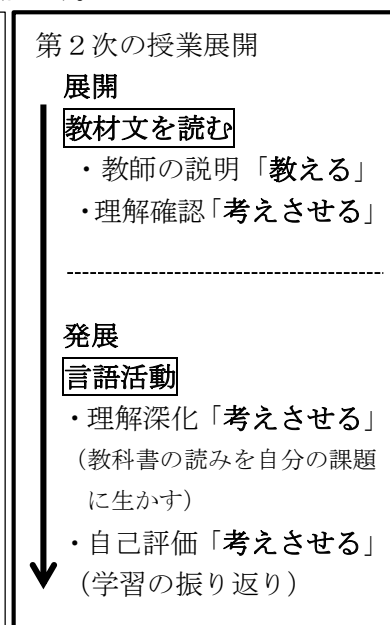


図4 「入れ子構造」と「教えて考えさせる授業」の関連

4 交流の場を設定することについて

学習指導要領では、「読むこと」の学習過程に、「自分の考えの形成及び交流」が明確化された。「自分の考えの形成及び交流」についての指導事項をまとめたのが表2である。

表2 小学校学習指導要領の「読むこと」における「自分の考えの形成及び交流」の指導事項

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
自分の考えの形成及び交流	文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。	文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。

中学年での交流の意図は、低学年での自分の思いや考えを「まとめる」ことを受けて、一人一人の感じ方について「違いのあることに気付く」こととなっている。高学年では、自分の考えを「広げたり深めたりする」ための交流が行われる。

授業での相互交流を通して、友達との考えの違いに気付かせ、自分の考えを表現させたい。

IV 検証授業

1 単元名 目的による表し方のちがいを考えよう (読む)

2 教材名 広告と説明書を読みくらべよう (説明文)

3 単元設定の理由

(1) 教材観 (省略)

(2) 児童観 (省略)

(3) 指導観

第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせる」ことである。教材文の学習を基に、実生活にある様々な文章を読ませることで、目的に応じて書かれた文章があることを理解させ、読み取り方を身に付けさせることが重要である。本単元では、広告や説明書という文章を読み比べさせることで、目的による表し方の違いや表現の工夫について読み取る力を身に付けさせたい。

単元を貫く言語活動としては、広告と説明書の書き方を確かめさせることを位置付ける。まず、第一次では、学習の見通しを児童に持たせるため、教師が作成したモデルの広告と説明書を示す。そして、自ら設定した課題(教材文と同様の広告や説明書)を準備し、活用させることで、主体的に学習に取り組む態度を育てたい。第二次では、教科書のてびきに示された読み比べる観点に沿って教材文を読み取らせ、それぞれの文章の目的に応じた表し方や書かれている事柄、その違いについて理解させる。そして、課題解決に必要な知識を身に付けさせる。読み取らせる場面では、ペアによる相互交流の場を設定し、内容の確認をさせる。観点に沿った読み取りができていれば、第三次の課題解決に必要な文章の読み取り方が身に付いたと考える。第三次では、自ら設定した課題を読み取らせ、その目的や表現の工夫について文章にまとめさせ、意見の交流を行わせる。交流させることにより自分の考えを表現させ、友達との考えの違いに気付かせ、繰り返し文章を読ませることにつなげたい。

これらの学習指導を通して、読解力を育てていきたい。

4 単元の指導目標

(1) 単元の目標 目的による表し方の違いや述べ方の工夫を読み取らせる。

(2) 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○学習の見通しを持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ○自ら設定した課題について意欲的に取り組もうとしている。	◎広告と説明書の書かれている事柄や表し方が異なることを、文章の目的と関係づけて読み取るようとしている。 イ ○広告や説明書の要点や細かい点に注意しながら読み、引用したりまとめたりしようとしている。 エ ○広告や説明書について読み取ったことを交流し、友達との考えの違いに気付いている。 オ	○広告や説明書に書かれた言葉には、目的に応じた考えや思いが表されていることに気付いている。 イ(ア)

(3) 単元を貫く言語活動

「広告や説明書のひみつを探ろう」

(関連：言語活動例 イ・ウ)

(4) 単元の指導・評価計画

過程	時間	学習活動	○教師の手立て・留意点 ☆言語活動の工夫	評価規準 (評価方法)	指導事項
第一次	1・2	<ul style="list-style-type: none"> 教師が作成したモデルの広告と説明書を見て、学習の見通しを持つ。 教科書を読み、広告と説明書がどのようなものか内容の大体をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が作成したモデルを提示することで、自分の課題を選ぶ際の手がかりとさせる。 ☆学習のゴールを示し、広告や説明書を見たり利用したりした経験を話し合わせながら課題を設定させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〔関〕 学習の見通しを持ち、主体的に学習の課題を設定しようとしている。 (観察) 〔読〕 広告や説明書の内容を考えながら音読している。 (観察) 	ア
第二次	3	<ul style="list-style-type: none"> 広告や説明書の目的(相手)を確かめ、書かれている事柄を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書を読み、広告と説明書の目的を理解させる。 ○教科書 p70 のてびきを手がかりに広告と説明書に書かれている事柄を読み取らせる。 ☆実際の広告と説明書が目的に合った書かれ方をしているか確かめさせる。 	〔読〕 広告や説明書について、その目的(相手)が分かり、書かれている事柄を読み取っている。 (発言・ワークシート)	イ
	4	<ul style="list-style-type: none"> 広告の目的(意図)を確かめ、広告のちらしに書かれている事柄を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書のてびきの観点に沿って教材文と実際の文章を読み比べさせる。 <p>第4時 広告について</p> <p>第5時 説明書について(本時)</p> <p><u>てびきの観点</u></p>	〔読〕 広告の目的を確かめ、教材文の広告と実際の広告を観点に沿って読み比べながら、書かれている事柄を読み取っている。 (発言・ワークシート)	イ エ オ
	5 本時	<ul style="list-style-type: none"> 説明書の目的(意図)を確かめ、取り扱い説明書に書かれている事柄を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①言葉の使い方や説明の仕方 ②写真や絵の使い方 ③色の使い方 ④書かれている事柄の順序やレイアウトの仕方 <p>☆読み取った内容についてペアで交流させながら、観点別にまとめさせる。</p>	〔読〕 説明書の目的を確かめ、教材文の説明書と実際の説明書を観点に沿って読み比べながら、書かれている事柄を読み取っている。 (発言・ワークシート)	〔関〕 自分の選んだ課題について意欲的に取り組んでいる。 (観察)
第三次	6	<ul style="list-style-type: none"> 広告と説明書を読み比べ、目的(相手・意図)による書き表し方の違いをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○広告と説明書の書き表し方の違いについて、てびきの観点に沿ってまとめ、効果的な書き表し方を理解させる。 ☆相互交流で、広告と説明書の書き表し方の違いを理解できているか、確かめさせる。 	〔読〕 広告と説明書の目的による表し方の違いを考えながら読み取っている。 (ワークシート)	エ オ
	7	<ul style="list-style-type: none"> 広告と説明書の違いを文章にまとめる。 例)「○○の広告は、多くの人にきょう味をもってもらようよう 	<ul style="list-style-type: none"> ○第4・5時で使用した広告と説明書を使い、それぞれの文章の違いについて観点に沿って、「このような理由で、この 	〔関〕 自分の選んだ課題について意欲的に取り組んでいる。 (観察)	〔読〕 広告や説明書の目的と表

第三次	7	に、キャッチコピーや写真を使っています。」 例)「理科の教材の取り扱い説明書は、私たちが安全に理科の勉強に使うための注意がくわしく書かれています。」	表し方をしている。」という文章にまとめさせる。 ☆相互交流で、広告と説明書の違いが観点に沿って文章にまとめてあるか確かめさせる。	し方の関係を考えながら、実際の広告や説明書の違いを文章にまとめようとしている。(発言・ワークシート) 〔言〕 広告や説明書について大事な言葉をおさえている。(発言・ワークシート)	
	8	・書いた文章を読み合い、交流する。 ・学習したことを振り返る。	○目的と観点に沿って分かりやすく書かれているか話し合わせる。 ☆読み合う視点を確認し、相互評価させる。 ☆読んだ感想を交流させ、友達の文章の良さや、自分の考えとの違いを見つけさせる。	〔読〕 広告や説明書についてまとめた文章に対する自分の意見を伝えたり、友達の文章の良さから考えの違いに気付いたりしている。(発言・ワークシート)	才

5 本時の指導(5/8)


(1) 本時のねらい

説明書の目的を確かめ、取り扱い説明書に書かれている事柄を読み取る。

(2) 授業仮説

- ① 説明書を観点に沿って読ませることで、書かれている事柄を読み取らせることができるであろう。
- ② ペアによる相互交流の場を設定することで、観点に沿った読みを確かめさせたり、自分の考えを表現させたりすることができるであろう。

(3) 本時の展開

過程	主な学習活動	○指導の留意点 ☆言語活動の工夫	評価(方法)
導入	1 前時までの学習内容を振り返る。 2 めあてを確かめる。 説明書に書かれていることがらを読み取るう。	○学習計画表を確認させる。 ○広告に書かれている事柄をまとめたことを想起させ、本時は説明書について書かれた事柄を読み取ることを確認させる。	
展開	3 本文を音読する。 4 教科書 p 69・p 70 の取り扱い説明書について、読み取る観点に沿って、書かれている事柄を読み取る。  5 教材文の読み取りを基に、実際の取り扱い説明書を読み比べ、書かれている事柄を読み取る。	○教科書 p 68, p 69 を黙読させる。 ○教科書 p 70, p 71 のてびきにある観点に沿って、教材文の取り扱い説明書を読み取らせる。 <u>てびきの観点</u> ① 言葉の使い方や説明の仕方 ② 写真や絵の使い方 ③ 色の使い方 ④ 書かれている事柄の順序やレイアウト ○まず、書かれている事柄について見つけさせる。 ○次に、観点について、書き表し方で工夫しているところを、ワークシートに書かせる。 ☆ペアで、観点に沿って読み取ったか確かめさせる。 ☆ワークシートに書いた内容について、選んだ理由をあわせて話し合わせることで、友達と自分との考えの違いに気付かせる。	〔読〕 説明書の目的を確かめ、教材文と実際の説明書を観点に沿って読み比べながら、書かれている事柄を読み取っている。(発言・ワークシート) 〔関〕 自分の選んだ課題について意欲的に

展 開			取り組んでいる。(観察)
ま と め	6 分かったことをまとめる。 7 学習を振り返る。 8 次時の学習を確認する。	○指名して読み取ったことについて発表させ、全体で学習内容を確認させる。 ○ワークシートに自己評価を記入させる。	

6 授業仮説の検証

本時の授業仮説について、児童のワークシートの記述や自己評価・感想、授業観察をもとに表3を作成した。これに基づいて考察する。

表3 評価(対象児童 35名)

検証場面	検証の視点	評価基準			検証方法
		A 十分満足	B 満足	C 努力を要する	
説 明 書 を 読 み 取 る 場 面	(1) 説明書を観点に沿って読ませることで、書かれている事柄を読み取らせることができたか。	観点に沿って説明書の目的に応じた表し方や書かれている事柄を読み取っている。	観点に沿って説明書に書かれている事柄を読み取っている。	説明書に書かれている事柄を読み取ることができない。	授業観察 (発言・発表) ワークシートの記述
	結果	60%(21名)	31%(11名)	9%(3名)	

検証場面	検証の視点	評価基準			検証方法
		A 十分満足	B 満足	C 努力を要する	
相 互 交 流 す る 場 面	(2) ペアによる相互交流の場を設定することで、観点に沿った読みを確かめさせたり、自分の考えを表現させることができたか。	観点に沿って読みを確かめ、自分の考えを表現することで、友達との考えの違いに気付いている。	観点に沿って読みを確かめ、自分の考えを表現している。	観点に沿った読みを確かめることができず、自分の考えを表現することができない。	授業観察 (発言・発表) 自己評価 感想
	結果	37%(13名)	37%(13名)	26%(9名)	

(1) 説明書を観点に沿って読ませることで、書かれている事柄を読み取らせることができたか

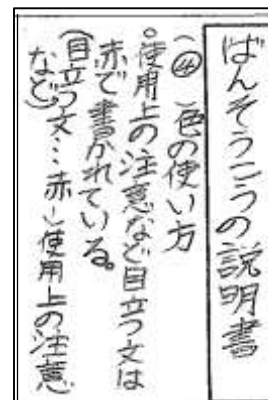
前時の広告に書かれている事柄を読み取った学習を活かして、本時は取り扱い説明書について書かれている事柄を読み取らせた。

まず、教材文の取り扱い説明書について観点に沿った読み取りを全体で確認し、次に、実際の取り扱い説明書について読み取らせた。その結果、説明書に書かれている事柄を、91%の児童が読み取ることができた。

よって、観点に沿って読ませることは、有効であったと考える。

資料1のように、説明書の目的に応じた表し方や書かれている事柄について、観点に沿って読み取っている児童(評価A)が60%であった。

そこで、第6時では、教師の個別指導に加え、評価Aの児童をリトルティーチャーとして互いに学び合う場を設定した。その結果、全員が観点に沿って説明書を読み取ることができた。



資料1 ワークシート

前は、言説明書を読むのはめんどうだったけど今は、読むのがおもしろい。

説明書がむずかしく思ってたけど、勉強強^クしてむずかしく思わなくなった

いつも朝早く起きて新聞が来るのを待って新聞が来たら広告から見ている。

資料4 授業を終えての感想

(2) 課題解決に必要な文章の読み取り方を身に付けさせることについて

実際の広告と説明書について読み取った事柄を記述するテストを行った。広告の書き表し方の工夫については89%，説明書の書き表し方の工夫については86%の児童が読み取ることができた。

資料5 広告と説明書の読み取りテスト

この図は、児童が書いた「広告」と「説明書」の読み取りテストの結果を示しています。両方の文章の冒頭に「目的を明示」するための黄色いボックスと、その内容を記述するための青いボックスが追加されています。

広告

目的を明示

の広告は、多くの人に知らせるものなので色や絵かめどうように書き表わ^るある。

写真が大きくてカラフルなので分かりやすい。

説明書

目的を明示

の説明書はかたじけなくのた^いに絵と文がセツトでかいてあってわかりやすくかいてあります。また、ケースがのけづら^いときによろずればいかもかしらかいてあります。

資料5 広告と説明書の読み取りテスト

資料5のように、文章の始めに書かれた目的を書き、次に観点に沿った書き表し方の工夫を書いた児童は、広告のテストでは49%，説明書のテストでは46%であった。文章の目的を明示して、書き表し方の工夫について記述するという点では課題が残ったが、広告と説明書の目的についてワークシート形式の確認問題を行った結果、89%の児童が理解できていた。

以上(1)(2)より、単元を貫く言語活動を設定し、児童に学習の見通しを持たせ、自ら課題を設定させることは、主体的に学習に取り組む態度を育てることや、課題解決に必要な文章の読み取り方を身に付けさせることに有効であったと考える。

2 自ら設定した課題に取り組ませ、児童同士の交流の場を設定することは、課題から読み取ったことを活用して自分の考えを表現させることに有効であったか

自ら設定した課題（実際の広告と説明書）を読み取り、その文章の書き表し方の工夫や良さについて伝え合う活動を第三次に行った。相互交流を通して友達の子の考えの良さに気づき、自分の考えをワークシートに記述することができた児童は94%であった。ワークシートに記述できなかった児童については、個別に聞き取りを行ったところ、発表した児童の内容の良さに気付いていたため、再度その児童と相互交流の場を設定した。広告や説明書を一緒に見ながら、書き表し方を確かめる様子が見られ、全児童が

ペアでやると一人では見つけられないことがわかった

一人で読んだら広告と説明書のちがいがよくしかみつけられなかったけど、ペアでやると、もっと多くみつけられた

資料6 児童の感想

自分の考えを記述することができた。

相互交流では積極的に質問をしたり、広告や説明書と見比べながら文章を読んだりする姿が多く見られ、アンケートでは、相互交流は課題の読み取りに役立ったという記述も多かった(資料6)。また、ワークシートでは、資料7のように課題から読み取ったことを活用した表現も見られた。

よって、自ら設定した課題に取り組み、児童同士の交流の場を設定することは、課題から読み取ったことを活用して自分の考えを表現させることに有効であったと考える。

以上1・2のことを通して、主体的に学習に取り組む態度を育てることや文章を読み取ること、自分の考えを表現することについては、単元を貫く言語活動の設定や相互交流の場の設定は有効であり、読解力を育てることができたと考える。

資料7 広告の読み取りを活用した表現

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 説明的な文章の学習において、単元を貫く言語活動を設定し、児童に学習の見通しを持たせ、自ら課題を設定させることは、主体的に学習に取り組む態度を育てることや課題解決に必要な文章の読み取り方を身に付けさせることに有効であった(V-1(1)(2))。
- (2) 相互交流の場を設定することは、児童が課題から読み取ったことを活用して、自分の考えを表現することに有効であった(V-2)。
- (3) 単元を貫く言語活動を設定し、教材文の読み取りを基に実際の広告や説明書を読み取らせ、読み取ったことを活用して自分の考えを表現させることは、読解力を育てることに有効であった(V-1・2)。

2 今後の課題

- (1) 文章の目的に応じて読み取る力を育てるための継続的な指導。
- (2) 自分の考えを表現させるための効果的な相互交流の手立て。

(主な参考文献)

横浜市小学校国語教育研究会著

『豊かな言語活動で確かな国語力を！一言語活動別言語能力系統化』 明治図書 2006年

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』

東洋館出版社 2008年

鎌田首治朗著 『真の読解力を育てる授業』

図書文化社 2009年

市川伸一・鎌木良夫編 『新学習指導要領対応 新版 教えて考えさせる授業 小学校』

図書文化社 2009年

水戸部修治著

『単元を貫く言語活動のすべてが分かる！小学校国語科授業&評価パーフェクトガイド』

明治図書 2013年

国立教育政策研究所 『OECD生徒の学習到達度調査～2012年調査国際結果の要約～』

2013年

花田修一・小森茂・水戸部修治・松木正子 共同編集 『実践国語研究325号』

明治図書 2014年